

海外安全対策情報（令和2年度第2四半期分）

1. 社会・治安情勢

令和元年11月15日、イラン政府がガソリン価格の引上げを発表したことに伴い、イラン各地において、数日間に亘って抗議行動が発生し、一部地域においては、ガソリンスタンド、銀行、政府施設等が襲撃されたと報じられました。イラン政府は、これを受けて、治安回復のための厳しい措置を徹底し、さらに全面的にインターネット接続を遮断するなどして事態の沈静化を図りましたが、イラン政府はこの抗議行動で230名が死亡したと発表するなど、大きな被害が生じました。また、フーズスタン州等のイランの一部地域においては、給与未払問題等の経済問題に端を発した抗議行動も引き続き発生しています。

イラン国内におけるテロ・襲撃事件については、平成29年6月7日にテヘラン市内の国会事務所建物内及びイマーム・ホメイニ廟周辺において、複数の武装グループによる銃撃や自爆攻撃により18名が死亡、約50名が負傷する事件が発生しました。また、平成30年9月22日には、南西部フーズスタン州アフヴァーズ市において、軍事パレードに対する銃撃事件（25名が死亡、60名以上が負傷）が発生しました。その後、南東部、南西部含むイランの南部地域においては、襲撃事案等が断続的に発生しており、同年12月6日には南東部シスタン・バルチスタン州チャーバハール市の警察本部に対する自動車爆弾攻撃が発生（治安機関員2名が死亡）し、平成31年2月13日には同州ハーシュ市～ザヘダン市間の道路において、革命ガードのバスに対する自爆攻撃（車両利用）が発生（革命ガード兵27名死亡）するなど、南部地域における治安情勢はやや不安定であり、武装組織・テロ組織と治安機関の戦闘が散発している北西部及び西部を含め、今後の同地域におけるテロ・グループの動向を注視する必要があります。

また、依然として、殺人、強盗、窃盗、性犯罪等の一般犯罪の発生もイラン国内の広い範囲で多々報じられていることから、イラン国内における行動については、十分に注意が必要です。

さらに、最近のイランをめぐる国際情勢及び新型コロナウイルス（COVID-19）の感染状況についても十分注意が必要です。

安全関連情報等については、当館から必要に応じて注意喚起情報を発出しておりますが、定期的に最新の報道や当館又は外務省海外安全ホームページをご確認いただくなど、自らの安全確保のための情報収集に心掛けてください。

2. 一般犯罪の傾向

(1) 概要

イランでは、犯罪発生件数に関する統計が公表されていませんが、各種報道によると、日常的に一般犯罪が発生しているものと考えられます。邦人に対する主な被害として、強盗（偽警察官による強盗、けん銃及び刃物を使用した強盗等）、窃盗（ひったくり、スリ、空き巣、忍込み等）等の事件が発生しております。また、観光客の少ない地方都市において、外国人女性の一人旅を狙った性犯罪が発生していることから、地方都市においては、女性の単独行動は極力控えるなどの注意が必要です。

最近の一般犯罪に関する報道は以下のとおりです。

- 7月19日付の報道によると、テヘラン州、アルボルズ州（キャラジ市）及び東アゼルバイジャン州において窃盗（空き巣）を繰り返していた3人組の窃盗犯が逮捕された。犯人は午後7時から午後11時までの間、家人不在の玄関扉を破壊し、バルコニーから家屋の中に侵入し、現金、宝石、高価な物品等を窃取していた。犯人は80件の犯行を自供し、犯行拠点からは2000億リアルが発見された。
- 8月10日付の報道によると、テヘラン北部の家屋から現金10億リアル、金製品、高額物品等を窃取した30歳の窃盗犯が逮捕された。犯人はテヘラン北部の家屋の一階をターゲットとし下見した上で、午後8時から午後11時までの間に、同階バルコニーから侵入し、現金等を窃取していた。
- 9月8日付の報道によると、8月中旬の夜間、テヘラン北部のアパートに侵入し、現金、貴金属等の窃盗を繰り返していた窃盗犯グループが逮捕された。窃盗犯グループは最大7人おり、夜間電気が点いていない家屋を物色し、玄関扉の鍵を破壊して侵入し犯行に及んでいた。犯人は絵画、絨毯、カメラ、タブレット及び携帯電話は現金化が難しいことから持ち去らず、主に現金及び貴金属を窃取していた。

(2) 邦人被害事案

第2四半期中における邦人被害の報告はありませんでした。

3. テロ事件等発生状況

(1) テヘラン市内

テヘラン市内では、平成29年6月7日に発生したI S I Lによるテロ以降、テロ関連事件の発生は報じられていません。

(2) 北西部及び西部イラク国境付近

北西部及び西部イラク国境地域では、クルド人独立国家の建設を目指す「P J A K（クルド自由生活党）」等による治安部隊等を標的としたテロが散発しておりますが、最近も以下の事件が報じられました。

- 7月18日付の報道によると、同15日、クルディスタン州サルヴァバードにおいて、テロリストがバシジ兵士、市役所職員等を銃撃し、2名が死亡した。
- 8月24日付の報道によると、同23日、西アゼルバイジャン州マーカーにおいて、革命ガードがテロ組織を解体した。テロリスト3名が死亡、大量の武器、弾薬等が押収された。

(3) 南東部パキスタン国境付近

南東部パキスタン国境地域には、「ジェイシュ・アルアドル」、「アンサール・ル・フォルガン」と称するバルーチ系スンニ派反政府組織等が存在し、同組織らによる治安部隊等を標的としたテロが散発しておりますが、最近も以下の事件が報じられました。

- 8月5日付の報道によると、同日深夜、シスタン・バルチスタン州ザヘダン市ズィバシャフルにおいて、駐車車両の脇に仕掛けられた音響爆弾が爆発し、治安機関員4名が負傷した。
- 9月29日付の報道によると、同日、シスタン・バルチスタン州ニークシャフル

市において、革命ガード隊員が乗車した車両2台が襲撃を受け、革命ガード隊員3名が殉職した。

(4) 南西部

南西部には、「アル・アフワズ」と称するアラブ系反政府組織等が存在し、過去同組織らによる治安部隊等を標的としたテロが発生していますが、最近も以下の事件が報じられました。

- 7月26日付の報道によると、同22日、フーゼスタン州マーフシャフル市において、バシジ司令官等の住居が分離主義系テロリストによる襲撃を受け、バシジ隊員の母親が死亡した。その後、テロリスト3名が特定され逮捕された。

4. 抗議行動発生状況

昨年11月15日、イラン政府がガソリン価格の引上げを発表したことに伴い、イラン各地において抗議行動が発生しました。本年度第2四半期中においては、フーゼスタン州等の主に南部地域において、給与未払い等に抗議する労働者等による抗議行動が発生し、一部抗議行動については数か月継続しました。今後も経済制裁や新型コロナウイルスの影響による経済状況悪化に伴う抗議行動の発生や、地方において発生した抗議行動がテヘラン市を含む各地に飛び火する可能性は否定できませんので、抗議行動関連動向には引き続き留意が必要です。

5. 誘拐・脅迫事件発生情報

(1) 誘拐事件

第2四半期中、外国人が誘拐事件の対象となったとの情報はありません。

(2) 脅迫事件

第2四半期中、外国人が脅迫事件の対象となったとの情報はありません。

6. 日本企業の安全に関わる諸問題

現時点では、当地における日本企業及び外国企業を対象とした脅威は特段見られません。ただし、上述のとおり、今後、国内各地で発生する抗議行動が、テヘラン市を含む各地に飛び火する可能性は否定できないため、抗議行動関連動向には引き続き留意が必要です。冒頭に記載したとおり、定期的に最新の報道や当館又は外務省海外安全ホームページをご確認いただくなどして、自らの安全確保のための情報収集を心掛けてください。